

第17回史跡小牧山整備計画策定会議記録

日時	平成28年2月18日（木）午前10時00分～11時50分
場所	小牧市役所 本庁舎 3階 301会議室
出席者	<p>委員</p> <p>池田 洋子 会長 藤岡 幹根 副会長</p> <p>松永 幸男 委員 速水 昭典 委員</p> <p>前原 宏一 委員 沖本 喜久江 委員</p> <p>梶間 巧 委員 舟橋 逸喜 委員</p> <p>澤木 厚司 委員</p> <p>助言者</p> <p>松本 彩 愛知県教育委員会主事</p> <p>事務局</p> <p>大野 成尚 教育部長 村田 吉隆 小牧山課長</p> <p>浅野 友昭 史跡係長 坪井 裕司 主査</p> <p>小野 友記子 主査 増田 聖 主事</p>
欠席者	<p>渡邊 守男 委員 名和 俊 委員</p> <p>小林 直浩 委員</p>
傍聴者	2名
配布資料	<p>資料1 史跡小牧山主郭地区第8次発掘調査について</p> <p>資料2 市役所旧本庁舎跡地整備 完成想像図</p> <p>資料3-1 小牧市（仮称）史跡センター展示基本設計図書 設計説明書（案）</p> <p>資料3-2 小牧市（仮称）史跡センター展示基本設計図書 概要版</p> <p>資料4 小牧市（仮称）史跡センター建設工事 基本設計</p> <p>その他資料 委員名簿、（仮称）史跡センター整備基本構想（概要版）</p>

■議事録

【事務局（村田課長）】

本日は、ご多忙の中、第17回史跡小牧山整備計画策定会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

それでは、初めに、教育部長の大野からご挨拶を申し上げます。

1. あいさつ

【大野教育部長】

改めまして、おはようございます。

平素より、本市の小牧山整備事業にご理解、ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

本来であれば教育長の安藤よりご挨拶申し上げるところでございますが、他の公務がございますので、申し訳ありませんが、私よりご挨拶を申し上げます。

本年に入りまして、青年会議所の組織内で異動があったとのことで、お一人、委員の交代があり、本日、2月18日付けにて名和委員に新しくご参加いただくこととなりました。改めてよろしくお願ひいたします。

去る2月13日（土）に、今年度発掘を進めてきました、小牧山の主郭地区第8次発掘調査に関する現地説明会を開催させていただきました。当日は小雨の降る中であつたにも関わらず、500名を超える参加者にご来場いただきまして、小牧山に対する関心の高さを改めて感じるとともに、情報発信や今後の整備のあり方について、大変参考になり、その重要性を強く認識したところです。今後は、市役所の旧本庁舎跡地や、（仮称）史跡センター建設を始めとする小牧山整備事業が続きます。本日の報告、議題の中で、これらの整備事業について皆様のご指導を賜りたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

2 策定会議会長あいさつ

【事務局（村田課長）】

それでは、池田会長からごあいさつをお願いいたします。

【池田会長】

皆さんこんにちは。池田です。私は小牧市文化財保護審議会からこちらに派遣されておりますが、このような立派な（仮称）史跡センターが出来るまでに、小牧山整備のための他の委員会などを踏まえて今日の日を迎えることができたというのを、本当に皆様のおかげだと思っています。本日も、大変立派な（仮称）史跡センターの設計基本計画など出ておりますので、皆様の新たなご意見等をいただきたいと思います。本日もよろしくお願ひします。

3 愛知県教育委員会あいさつ

【事務局（村田課長）】

続きまして、愛知県教育委員会 松本様からご挨拶をお願いいたします。

【松本委員】

愛知県教育委員会の松本と申します。本日はよろしく申し上げます。

私は今年度より県の担当となりまして、一年間ですが、小牧市等の動向、国との調整含め、携わらせていただきました。今年度は主郭地区第8次発掘調査、旧本庁舎跡地整備、（仮称）史跡センター展示基本設計、建築基本設計と、内容としては今後も含めて一番肝となる年であったのではないかと、個人的には思っています。

史跡地内は改変不可の地域となっていて、史跡発掘調査をして記録保存をすれば開発をしていいという埋蔵文化包蔵地とは異なり、基本的に遺構の保存を第一と考えます。都市公園とも異なり、便益施設等も原則は作ることができません。本来であれば（仮称）史跡センターについても史跡地内には設置できないですが、今回の小牧山の場合は体育館の跡地であり、遺構がもう無くなってしまっているということで、たまたま（仮称）史跡センターがすごく近い場所に設置出来ることとなっています。

それにしても、色々なところで、整備も含めて制約がある中で、非常にご尽力されてきたのを横から見てまいりました。

更には、発掘調査で500人を超える方々がみえたということで、一般市民の方にも、史跡小牧山をご理解いただける場になったのではないかと思います。

本日の会議では、また保存と活用のバランスを考えた上での色々なご意見をいただけたらと私としても思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

【事務局（村田課長）】

ありがとうございました。

大変申し訳ありませんが、教育部長の大野につきましては、他に公務がございますので、これで退席をさせていただきます。

【大野教育部長】

申し訳ありませんが、よろしく申し上げます。

【事務局（村田課長）】

なお、渡邊委員、小林委員におかれましては、本日ご欠席のご連絡をいただいております。（名和委員からも欠席のご連絡有り）

続きまして、お手元にあります本日の資料を確認させていただきます。

事前に配布させていただきました資料は、

- ・次第 A4の縦1枚
- ・資料2「市役所旧本庁舎跡地整備 完成想像図」 A4の横1枚
- ・資料3-1「小牧市（仮称）史跡センター 展示基本設計図書 設計説明書（案）」 A4横の両面刷り10枚
- ・資料3-2「小牧市（仮称）史跡センター 展示基本設計図書 概要版」 A4横の両面刷り1枚、片面刷り1枚
- ・資料4「小牧市（仮称）史跡センター建設工事 基本設計」 A3の横9枚

となります。ご確認をお願いいたします。

続きまして、本日机上に配布させていただきました資料は、

- ・資料1「史跡小牧山主郭地区第8次発掘調査について」 A4縦の両面刷り4枚
- ・（仮称）史跡センター整備基本構想（概要版） A4横の両面刷り3枚
- ・史跡小牧山整備計画策定会議委員名簿 A4の縦1枚

となります。ご確認をお願いいたします。

ありがとうございました。

この会議は「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、公開会議とさせていただきます。併せまして、議事録につきましても、お名前と発言内容ともに公開させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

本日、傍聴者が2名居られますので、報告させていただきます。

それでは次第4 報告に移ります。以下の議事進行は、池田会長にお願いいたします。

4 報告（1）史跡小牧山主郭地区第8次発掘調査について

【池田会長】

それでは、会議の次第により、報告事項の（1）史跡小牧山主郭地区第8次発掘調査について、事務局に説明をお願いします。

【事務局（小野）】

報告（1）史跡小牧山主郭地区第8次発掘調査について、調査を担当しました小牧山課小野よりご報告します。資料1をご覧くださいつつ、ご説明します。

今年度の調査は小牧山城の山頂部、主郭といっている、いわゆる本丸エリア

の出入り口が開口したと想定される2箇所の部分について調査をしました。

調査期間は昨年8月から入りまして、現在まだ発掘調査の最終局面にありますので、3月までを予定しています。調査面積については310平米程となります。

調査の内容については2ページをご覧ください。

図1にあるように、小牧市歴史館の南側に通路としてありました石階段の部分をU区として、また、歴史館の東側、管理用通路としてスロープになっていた部分をT区として、それぞれ調査に入っています。黄緑色の部分が、8次までに調査が入った部分、赤色の点線が、石垣がおおよそこのように巡るという概要を示したプランとなります。

U区、T区ともに、1ページ目下段の古城絵図を見ていただくと、本丸と書かれている山頂部に対して、道というか、閉塞されずに口が開いている状態となっています。これを城の用語では虎口と書きましてこぐちと呼ばれる出入り口になるわけですが、その出入り口の構造がどのようになっているのかというのは、将来主郭地区を整備していく上でどのような設計として反映させるかという非常に重要な課題となります。今回、そのプランを明らかにするという目的で調査に入らせていただきました。細かい内容につきましては、2ページ、3ページにT区、U区でわかったことが書いてありますが、時間の都合もありますので、おおよそどのようなことがわかったかについては、4ページと前にあります模型でご説明したいと思います。

4ページ真ん中ほどの写真7では、その南側と東側の開口部分では石垣がどのように続いていたかを模型で示し、そのプランを赤い点線で示しています。

U区、南側の石階段があった部分については、上下2段に石垣がめぐっていた、その石垣の続きがそれぞれ確認できています。

石垣Ⅰと呼んでいる上段の石垣については、西側から続いてきている石垣が、丁度徳川義親氏の銅像が建っている巨石をコーナー部、隅角石として内側、歴史館の側に鋭く折れ曲がっていて、L字型のプランを持っているということ、そして石垣Ⅱと呼んでいる2段目の石垣については、逆に手前、谷側の方に折れ曲がっており、これがそれぞれ直線の大手道の山に向かって左側の壁、動線形状を形成しているということがわかりました。

続いて東側の出入り口、虎口であるT区が右側の写真の部分です。中央部に緑色の枠で仕切っているのが今回の発掘調査区で、その部分を本日模型でお持ちしましたので、そちらでご説明いたします。

こちらがT区です。皆様のお手元の資料ですとこのような位置関係になります。こちらが下側、こちらが山側、歴史館が建っているのがこちら側で、上に石垣Ⅰがこちら側から進んできていまして、内側に折れて、このように石垣を検出しているのが石垣Ⅰのプランです。そして石垣Ⅱ、2段目の石垣も、向かって左側からこのように進んできて、手前に折れ曲がっており、入隅と呼ばれる内側に曲がるプランを検出しました。それぞれ石垣Ⅰと石垣Ⅱが一直線の形状を形成しており、この部分が搦手道と呼んでいるお城の通路の、向かって左側に入る区画ということを確認できました。加えてこちらに表現されております平たい石というのが道の石垣寄りのところにきちんと据え付けられていることを確認しました。これは建物の基礎構造となる礎石と言われる遺構を検出したということです。小牧山城ではこれまでの調査で石垣は確認しておりましたが、その上物、例えば建物にアプローチ出来る証拠というのは確認できなかった訳ですが、今回初めて礎石を検出したことによって、何らかの構造物が小牧山城の中心部分にも建っていたことを推測させる、非常に大きな発見となりました。

それぞれの地区の石垣の状況から、南側、石階段があった部分の石使いが大きかったり、江戸時代の絵図で大手道として表現されていたりということで、出入り口としてはこちらが正面玄関に相当する大手の虎口、そして、東側の、模型で示しているところが、裏口、搦手といっている搦手の虎口だろうと推測するに至りました。

という訳で、こちらで見つかった礎石については、搦手の出入り口を遮蔽するような構造物、いわゆる門のような建物がここにあったのではないかとということで、写真7には「搦手門か」とさせていただきます。緑色の四角で囲っているのがこの礎石の位置です。

調査の概要につきましては以上です。

【池田会長】

ありがとうございました。事務局からの説明は終わりましたが、何か質問などありますか。

(特になし)

4 報告(2) 旧本庁舎跡地整備について

【池田会長】

続きまして、会議の次第により、報告事項の(2) 旧本庁舎跡地整備について

て、事務局に説明をお願いします。

【事務局（浅野係長）】

お手元の資料2をご覧いただきながら、ご説明したいと思います。併せて、資料1の1ページ目上段の図もご覧いただきますと、より分かりやすいかと思えます。

現在進めております旧本庁舎跡地の整備について、現在の状況と今後のスケジュールを併せてご説明します。

資料1の1ページ目上段、小牧山城縄張図をご覧いただきますと、若干わかりにくいですが、小牧山をぐるりと囲むように二重の土塁と堀が見て取れます。この二重の土塁と堀が、南側、丁度大手道のすぐ東側辺りまで回っていました。ところが、市役所の本庁舎を建設する際に、大分山側を削り込んで、遺構を壊してしまったという状況です。今進めている工事は、これを本来あった姿に戻す、土塁、堀、曲輪などを元の姿に戻すものとなります。見ていただければ分かるかと思いますが、今年度は祖造成工事を行っており、道路から向かって山側に土塁を築いています。土塁の向こう側は若干くぼんでおり、堀相当となります。そこからまた山のように上がり、曲輪と呼ばれる平地があり、桜の馬場に続く祖造成工事、いわゆる土盛りを行っています。この工事は3月までには完了する予定です。

この後は、資料2にあるように植栽の工事や階段、解説板の設置、路面の舗装、便益施設の整備を行います。今の土もある程度落ち着かせたいと考えており、おおむね今年の夏以降に着手予定としています。こちらも来年3月までには完了の予定となっており、平地など、貼り付けた芝の養生が必要な部分も一部ありますが、桜の咲くころにはオープンして中に入れるようなスケジュールを考えています。

簡単ですが、説明につきましては、以上で終わります。

【池田会長】

ありがとうございました。事務局からの説明は終わりましたが、何か質問などありますか。

【澤木委員】

植栽や色々な便益施設の工事に入ることですが、植栽についてはどのような内容を考えていますか。

【事務局（浅野係長）】

基本的には織田信長、小牧・長久手の合戦の遺構を復元することです

ので、例えば江戸時代から品種改良されたソメイヨシノなど、当時あったとは考え難いものや、外来種などについては植えることは出来ません。おおむねこのころにはあったであろう笹や低木等を植えるかと思いますが、また来年度実施設計を進める中で、ここにこういうものをといた、具体的な植栽の計画についても進めていきたいと考えています。

桜でも、そのころあったと考えられるベニシダレやヤマザクラ、例えば薄墨桜千年と言いますが、昔からあるような品種については植えることが出来ると考えていますので、今後も検討していきたいと考えています。

【澤木委員】

そういった過去あったと考えられる樹木の中で、低木もあるかと思いますが、出来れば鑑賞出来るようなもの、見て楽しめるようなものを植えていただくと、と思います。

【池田会長】

観賞用の低木を、ということですね。

【澤木委員】

そうです。過去あったと思われるもので、観賞用になるものがあればということですね。

【池田会長】

当時存在していた植物の中から、観賞用になる低木、花木を候補に入れて欲しいということです。よろしくお願いします。

他にありますか。

(特になし)

それでは特に無いようですので、報告事項を終わります。

5 議題（１）（仮称）史跡センター展示基本設計について

【池田会長】

続きまして、議題の（１）（仮称）史跡センター展示基本設計について、事務局に説明をお願いします。

【事務局（小野）】

（仮称）史跡センター展示基本設計について、資料3-1、3-2及び（仮称）史跡センター整備基本構想（概要版）に基づき、事務局よりご説明します。

（仮称）史跡センターについては、平成10年度に策定された史跡小牧山整備

計画基本構想では早期整備に位置づけられているもので、その時点で、史跡隣接地に適地が無い、旧小牧中学校の校舎等により、遺構が残っていないなどの理由により、これからご報告する地点が（仮称）史跡センター建設予定地となっています。

スケジュールとしては、基本構想概要版の1ページにあるように、平成26年度に基本構想を策定し、今年度基本設計、来年度実施設計を行い、平成30年には開館の予定で事業を進めています。（仮称）史跡センター整備基本構想で謳われているコンセプトとしては、信長が初めて築いた石垣等城郭遺構として全国的に注目をあびていること、発掘調査の成果などの調査研究、展示等の充実が望まれていること、また、基本構想、全体構想でゾーニングされた史跡展示ゾーンといわれる部分が、先程のご報告でもありましたように、旧市役所本庁舎跡地の部分の整備の完了が近づいてまいりまして、史跡展示ゾーンの完成が近付いてきた、このタイミングをもって、（仮称）史跡センターにより史跡そのもののガイダンス機能をより充実させ、発信力を高めていくというコンセプトで事業を進めています。

建設位置については、基本構想の3ページ敷地・建設概要をご覧くださいますと、小牧山の南東部、旧小牧中学校の校舎及び体育館、そして柔剣道場があった位置で、赤く楕円で塗られているのが建設予定地となっており、この部分はお城の時代、城郭遺構としては、3ページ下にある「史跡センター全体の空間構成」という図を見ていただきますと、曲輪217と曲輪218とで段々状に、雛壇というか、段々畑のように平らな部分が作られていたと想定される部分ですが、それが戦後の小牧中学校の建設の際に敷地を取るために大規模な削平を受けている箇所にあたります。

資料3-1小牧市（仮称）史跡センター展示基本設計図書 設計説明書（案）でご説明します。

2ページの施設概要については、今お伝えしたとおり建設予定地がこの位置になることを示しています。

施設構成については、この後の建設工事基本設計でも触れますので、建物の中の展示についてご説明します。

3ページ目、展示設計の基本的な考え方、いわゆるコンセプトですが、青色と緑色の、3つずつの大きなコンセプトを持っています。

青色が展示の基本方針です。展示の基本方針としては「小牧山の多様性」「アクション 能動・参加」「インパクト 興味喚起」という、3本の柱で

臨もうと考えています。

小牧山は史跡としてよく知られており、歴史的な背景が中心になってきますが、小牧山の持つ自然であるとか、近現代にどのような歴史を辿っていたのか、どのように今の市民の方々と関わっているのかなども大きく触れていきたいということで「小牧山の多様性」としています。

そして、小牧市が子育てNo.1都市を目指す、夢チャレンジという方策を進めている中で、小中学生が小牧山により親しんでいただけること、そして、精神的支えにもなる存在になっていくことを目指し、小中学生をメインターゲットに、体感的に学ぶことが出来ることを目指そうということで「アクション 能動・参加」を展示の中に多く盛り込みたいと考えています。

また、「インパクト 興味喚起」というのは全国に様々な展示施設、様々なアトラクションがあふれている中で、インパクトを与えられる、そして、小牧市に行ったらこれだけ小牧山のことが分かったよと印象付けられるような施設でなければ造った意味も中々ないのではないかとすることで、展示に出会った際のインパクトを重視して、来館者の興味を喚起、リピートにつながるような設備を目指したいと考えています。

続いて展示空間の基本方針として、「迫力 スケール感」「可変性 更新性」「屋内外への回遊性」を3つの柱といたしました。

「迫力 スケール感」としては、(仮称)史跡センターが持つ役割の一つとして、山頂で次々と見つかった石垣を将来的には整備を行う予定ではあるものの、それが全面的であるのか、保護と活用のバランスを考えると、100%の姿を山頂で見ていただくことは難しいのではないかと、その場合、どこで100%の信長の石垣のインパクト、スケール感を出せるかと言うと、やはりこのガイダンス施設になってくるのであろうということで、なるべく柱が少ない大型展示を目指して、上では見る事が出来ない当時の姿、スケール感というのをここで体感していただけるエリアにしたいと考えています。

そして「可変性 更新性」としては、資料の更新や利用状態を考慮した可変性のある空間として、今後も調査が進み、情報が追加される可能性が多い史跡であることを考慮し、より新しい情報を常に追いかけていくことが出来るように、造ってしまったらそれっきりではなく、こまめに最新の情報に転換していくことによって、1年前、2年前に来た方でも、もう一度来ると「目新しいことがあるんだ」「もう一度来てみよう」と思わせるような、こまめな切り替えが出来るものを目指していきたいと考えています。

また、先ほど県の松本様からお話があったように、この施設には、本来、原則的には建てることのできないエリアである史跡内に、特に認めていただいて造ることが出来る施設であるという特徴があります。それをメリットとして捉え、この施設で学んで外に出れば、すぐに学んだことがフィードバック出来る史跡内にいて、そのまま山頂に上がったり、城内を散策したりすれば、ガイダンス施設でレクチャーされたことがすぐに体感出来るエリア、空間とすることで、回遊性を高めることを目指します。

展示に関しては細かい内容がかなりあるため、ストーリーのみ順に追いたいと思います。

7ページは施設の入り口、エントランスです。この部分は、常設展示など、展示的なエリアに入る前の段階であり、常設展示室に入らない方でもトイレの利用など、様々な理由で入ってくる場所です。そのため、いわゆるガイド、総合的なインフォメーションをこのエリアで提供出来るようにしたいと考えています。例えば、イメージ図にもあるように、床に史跡の大きなMAPを置き、ガイドボランティアが「今自分たちはここに居て、こんな道を通ると山頂にいけますよ」「お手洗いはここですよ」「今こんな花がこの場所で綺麗ですよ」といった、ガイドや一般的なレクチャーが出来ると考えています。

続いて、8ページ以降が常設展示施設として考えています。

右上にある小さな平面図の中で丸く赤く塗られている部分ですが、これは常設展示室への導入部分、いわゆるイントロダクションとして設定している、小牧山シアターという画像展示、映像展示を考えているエリアです。ここで没入感のある映像を投影することによって、ちょっと大げさかもしれませんが、現代から戦国時代へとタイムスリップするような感覚を持ってもらった上で、次の常設展示室へ誘います。そして、お子さん向けの体感展示として、葉っぱや花などが床に投影されていて、踏んだり触ったりするとカサカサと動くような仕掛けが出来るとのことですので、テレビに映されるだけではなく、自分の動きに合わせて反応するソフト、プログラムを考えています。

続いて10ページ。イントロダクションを抜けて最初に常設展示に入る部分で、そもそも小牧山とは何なのか、歴史の中でどのような位置づけなのかということ、来館者に知っていただく展示となります。

「戦国の小牧」として、小牧山城は戦国時代に大きく分けて2つの側面があります。1つは信長が築城した段階、永禄6年から永禄10年までの間です。そして一旦廃城となった後、再度歴史に登場するのが、2つ目、有名な小牧・長

久手の合戦で徳川家康が本陣としたという歴史があります。

それぞれ、小牧山上の築城、小牧・長久手の合戦という2つの大きなでき事、トピックを柱として取り上げることによって、それを歴史のキーポイントとして、小牧山がいかに重要な地点であるかを知っていただく展示を目指すエリアです。

様々な戦国武将が小牧を駆け抜けていったのではないかとということで、11ページ右下にありますのは、最近様々な戦国武将やお城が漫画やゲームに取り上げられていて、若い方々やお子様にも身近に感じていただけるような存在、コンテンツとなっていることを踏まえた展開イメージの例となります。この展開イメージの例ではビジュアルテーブルというかモニターのようなものを使い、それに触ると関連する武将が寄ってきたりだとか、その人に関連するインフォメーションがフキダシで出てきたりだとか、可変性や動きのあるオンデマンドの情報を扱うことで、より若い方の興味が得られるような仕組みを考えています。

続いて12ページ。「小牧山城と城下町」についてのインフォメーションを扱うエリアということで、小牧山が「小牧山城建築前」「信長のお城」「家康のお城」「現代」というように、どのように姿を変えてきたのか、今と昔をどのように繋げるか、点と点を線で結ぶようなものを設け、そして出土品等を使って説明をしていこうと考えているエリアです。

この辺りが出土品を取り扱うエリアとなっており、13ページにあるように展示台を利用しますが、この展示台は後ほどご説明する企画展示室などでも共用可能なものとし、こまめな展示替え、配置替えを行うことで、目新しさを失わない空間作りを目指していきたいと考えています。

続いて14ページ。「土の城から石の城へ」というコーナーですが、この展示がある意味では（仮称）史跡センターでの1つの目玉となるのではないかと考えているエリアです。山頂で見ていただける石垣が100パーセント見ていただく、感じていただくことができない代わりに、この展示で1分の1の石垣模型を設けることで、小牧山城の主郭の姿、スケールを感じていただきたい。石垣模型も、単に石を模したものを積み上げておいておきますということではなく、イラストにあるように石垣模型の左側、そして石垣そのものがスクリーンの代わりをしており、例えば「石垣がどのように積まれたのか」「山頂で見られるのはこれだけだけれども、本来450年前にはここまで積み上がっていたんだよ」ということを、映像を模型に投影することなどによって理解をより深める

といった仕掛けを考えています。

また歴史館に展示している佐久間という墨書のある石垣石材についても、こちらに展示を移すことでより石垣の価値を皆さんに知っていただく工夫をしたいと考えています。

続いて16ページ。こちらは常設展示の終わり、または常設展示の外に出た辺りに考えているエリアです。

1つが「戦国プレイベース」という、体験学習コーナーとなります。大きく四角が5つありますが、例示しているコンテンツが全て反映されるわけではなく、あくまで今進めている基本設計の中ではこれくらいのことを考えているということです。ここから、全体のバランスや予算等を考慮し、この中のいくつか、またはどれかを体験学習コーナーとしたいと考えています。

また、常設展示室を出た後、施設の南側は展望を見渡せる開放的な空間を考えておりますが、このエリアは「小牧山歴史ギャラリー」として小牧山の歴史を現代まで一連の流れとして見ていただけるようにすることで、私たちからは遠い戦国時代ではなく、身近な小牧山にはこんなバックグラウンドがあるんだよという案内にしていきたいと考えています。

続いて17ページ、18ページです。こちらは資料室、倉庫兼収蔵展示室、企画展示室を考えているエリアで、常設展示室はエントランスを右に進んでいく動線となっておりますが、こちらは左奥に展開するエリアです。

このエリアは見出しにあるとおり、資料室、倉庫兼収蔵展示室、企画展示室として割り当てていますが、どのように使用するかを固定するのではなく、フレキシブルに運用していきたいと考えている空間です。18ページにあるように、展開パターンを4通りほど想定しており、内部の間仕切りを稼働させることで作業収蔵公開スペースそして収蔵品の展示、資料室と分けるパターン、作業収蔵公開スペースを一体的に使って特別企画展をすることによって、施設の可変性につなげることを考えております。また、ガイドボランティアなど、様々な用途を想定した研修室的な使い方、そして体験学習の中でワークショップを行う場合でもこのエリアで対応出来るようにと、フレキシブルな使い方が出来るようにと考えています。

この施設は文化庁の補助金もいただいている、史跡内のガイダンス施設という位置づけになり、公開されていることが前提の施設となります。資材等を保管するクロードの倉庫など以外については、可能な限り共用出来るエリアを最大限使おうと考えた結果、このようなデザインとなりました。

最後に19ページです。展示における（仮称）史跡センターと歴史館の住み分けについて整理をしています。

現在小牧市歴史館で扱っているもののうち、両方、あるいは（仮称）史跡センターに移動して取り扱う項目があります。（仮称）史跡センター整備後は、歴史館との間でこのように住み分け、機能分化を図っていきたいと考えていますが、（仮称）史跡センターにおいては、原則として小牧山に関する展示に内容が絞られるため、それ以外の項目については歴史館で引き続き展示、公開をしていくこととなります。（仮称）史跡センターではより小牧山の情報、例えば自然などの歴史館で扱っていなかったものなどを充実させることで、小牧山の上と下でより良い情報発信に繋げていきたいと考えています。

展示基本設計の説明は以上です。

【池田会長】

ありがとうございました。事務局からの説明は終わりましたが、何か質問などありますか。

【松永委員】

映像などはもうできていますか。

【事務局（小野）】

まず今回でストーリーができ上がり、展示に関わる映像については来年度以降の作成となります。

ただし、映像の素材となるものの中でも再度撮影することが困難である発掘調査の映像については、第4次以降の発掘調査の映像を撮り貯めているため、これを反映させていきたいと考えています。

【松永委員】

例えば山頂辺りに、いわゆる天守閣のようなものは有ったとお考えですか。

【事務局（小野）】

資料1の発掘調査報告に立ち戻るかもしれませんが、搦手で礎石が1つ見つかっただけでこれだけ喜んでいるような状態ですので、山頂部の構造物については何らかの成果が上がっている状況ではありません。

分からないものを勇み足で先に、というのは史跡の整備上適切では無いと考えていますので、それは可変性という部分に大いに関わってくるのですが、今後調査の中でアプローチ出来るだけの確たる証拠が出てきた上での検討となるかと思えます。

現在では残念ながら天守閣などの上物について、何らかの構造物を推定出来

るだけの材料はありません。

【松永委員】

何故こんなことを聞くかという、山頂まで誘導することを基本線としてい
る中で、残念ながら資料館は戦国の建物というわけではないため、これが小牧
山城かと思われるのも変だと思ったので。

であれば、戦国の建物としてこんなものが有ったのではないかということ
を想像させるくらいは良いのではないかなど。

【事務局（小野）】

歴史館については、何もインフォメーションがなければあれが小牧山城か
と思われてしまう懸念もありますので、（仮称）史跡センターで「あれは昭和43
年の建造物なんだよ。もしかすると前身として戦国時代に建物があったかもし
れないよ」ということは学術的根拠に基づいて言えるところまで、妥当な範囲
で情報として伝えられるところまでは伝えますが、ビジュアル的にどこまで表
現出来るかは非常に難しい問題であり、間違った情報を伝えてしまう危険性も
あるため、慎重に検討していきたいと考えています。

【松永委員】

せつかなので、上の建物は全く違うものであることは断り書きを入れた方
が良いのではないかと思います。

【前原委員】

小中学校を代表する立場としてお願いします。

小中学生をメインターゲットとしているということで、子ども達にとっても
思い出に残る訪問、体験になると思います。

以前の会でもお話しましたが、1クラス40人学級でレクチャールームには2
クラス是非入らせたかったので、80人程度としていただけるとありがたいです。

また、上では見ることができない部分をガイダンス施設で体験出来るように
という話では、施設の問題というか、小牧山の山頂部で見ることができないと
いう側面と、高齢者などが山頂まで行けないために見ることができないという
側面があると思いますが、一方ではリピーターを増やしたいと考えている。た
だ、私たちがもう一度見ようかなと思う時には何年か経っていて年齢のせいで
上がれない、私の母親も同じようなことを言っていました。

後から説明があるかもしれませんが、お年寄りに配慮したバリアフリー的な
考え方を取り入れていただいているかを教えてください。

【事務局（増田）】

まずレクチャールームのお話ですが、資料4の平面図をご覧くださいますと、部屋ごとのプランをご確認いただけるかと思えます。レクチャールームについても建物の東側に記載がありますが、80人程度収容出来る設計としていますので、ご確認ください。

バリアフリーについては、今回の資料は基本設計の図面であるため見て取ることができませんが、館内のバリアフリー化は実施予定としています。今後実施設計の中で詳細を検討していきますので、ご了承ください。

【速水委員】

3点お願いします。

これからは外国人も来ることが想定されるため、表示と音声案内で外国語対応を考えているかどうかは1点目です。

色々説明いただく中で、一通り小牧山城について理解しようとする、所要時間としてどれくらいを想定しているのかが2点目です。

これからの運営になると思いますが、入館料を取るのか取らないのかが3点目です。

以上3点について教えてください。

【事務局（小野）】

1点目、来場者、特に外国人向けの案内について、表示については外国語対応を行うことを考えていますが、何ヶ国語になるかなどの詳細については未定です。音声については、現在検討が進んでおりませんので、実施設計の中で考えていくことになるかと思えます。是非、実際に何ヶ国語が必要であるかなど、ご教授いただければと考えています。

2点目、所要時間については、展示設計の打ち合わせの中では、常設展示は説明を全て細かに読み、映像を最初から最後まで見れば60分～90分程の内容とされていました。これは体験の展示も含めての時間です。なお、映像展示を何箇所かで予定していますが、他施設での事例を踏まえ、子どもの集中力の続く時間を考慮し、1本あたり7分～10分程度としています。

3点目、入館料の是非については、取ることも取らないことも未定となっているため、今後の検討とさせていただきたいと思えます。

【舟橋委員】

せっかく「戦国時代に名を刻んだ人達」という展示をしていただけるということですので。四国などでお城に行くと、実はその城主が小牧・長久手の合戦に参加していた武将であったとか、信長や秀吉の家来であったとか、そう書

いてあることが良くあります。多少オーバーかもしれませんが、小牧に縁のあった人が全国各地に散らばって、その国を治めていたことが分かるようにしていただいて小牧の子ども達に夢を持ってもらいたいです。更には、全国から小牧に来た人が故郷のお殿様が戦った地だということが分かるようにしていただければと。直接史跡には関係ないかもしれませんが、例えば日本地図を使ってどこの武将かが分かるようにしてもらえると全国の人にも喜ぶし、小牧の人にも夢がもてるかなあと。可能であればお願いします。

【藤岡副会長】

19ページに展示の概要がありますが、最終的に（仮称）史跡センターができた後の展示で、歴史館と重複している部分がありますが、どこまでをどのように住み分けするとお考えですか。上も下も同じものを、というのはどうなのかなと感じます。片方しか行かない人の為にとということであれば理解できますが、両方いく人からすれば「何だ、両方同じじゃないか」となるのもどうかと思うので、子供向け大人向けなど、同じ資料でも住み分けが出来るように考えていただければと思いました。

【事務局（浅野係長）】

山頂の歴史館については、小牧の歴史を紹介する郷土資料館ということで限定されますが、例えば歴史館にある小牧山城関係をすべて無くして（仮称）史跡センターに集約してしまうと、その部分の歴史が飛んでしまうので出来ないだろうと思われまます。

ただ、仰るとおり、同じ物を展示しては「下で見た」となってしまうので、例えば「小牧の祭り（近現代）」などは、現在歴史館ではパネル展示をしているため、下では最新の情報を提供する、合戦図屏風などもいくつかありますので、歴史館は尾張徳川家所有の複製、下では別の所有の物を展示するなど、項目は同じでも違う展示になるよう考えていますので、全く同じ物が2箇所ではなりません。

【池田会長】

歴史館というのは今までの市内の歴史を扱う。（仮称）史跡センターは（仮称）小牧市史跡センターなのか、（仮称）小牧山史跡センターなのかでずいぶん中身や展示が違って来るかと思います。最終的には公募されるかもしれませんが、どちらをお考えですか。

先ほど日本地図という話がありました。エントランスに入れば小牧山の地図の上に乗るというのは分かるんですが、では小牧山が各時代で当時の政権とど

のような位置関係にあったかを子ども達が分かるようにしないといけない。日本の中で小牧はこうだったんだよと。

それに、織田信長が作った城にしても、次に岐阜城をいき、その次に安土城を作りというような経緯がある中で小牧山城があるんだということが分かるような展示をお願いしたい。

石垣がこうだったんだよという展示は有ってもいいが、それ以上にその石垣にどのような意味があるのか、次にどう繋がっていくのかを分かるようにしてください。

もう1点。石垣に興味を持って作っていただくのは良いですが、城下町がどのような有り様であったのか、排水溝があったなどの話は非常に大きな問題なので、今後文化庁がやっている歴史文化基本構想の中で、すごく大きな城下町というものを小牧が持っているので、それをきちんと表示していただきたいと思います。

ただ「こうだったよ」「お店が有ったよ」というのではなくて、例えばまだ岸田家が残っているので、スーパーやコンビニの発想しかない小学生の子達には分からない「こんな古い物が残っているんだよ」「江戸時代のお店ってこうだったんだよ」「城下町ってこんな感じだったんだよ」ということを、何かを作るのではなく、プロジェクションマッピングなどを使って視覚から訴えかけるような展示として欲しい。

ただ小牧山だけではなくて、もう少し広げていただけるとありがたいです。

他にありますか。

(特になし)

それでは特に無いようですので、5 議題（1）旧本庁舎跡地整備についてを終わります。

5 議題（2）（仮称）史跡センター建築基本設計について

【池田会長】

続きまして、議題の（2）（仮称）史跡センター建築基本設計について、事務局に説明をお願いします。

【事務局（増田）】

資料4 小牧市（仮称）史跡センター建設工事 基本設計に基づいてご説明いたします。

今回、建築基本設計におきましては、建物の構造を大まかに図示したものと

して平面図、立面図、断面図を、外観のイメージを図示したものととして外観パース、建物を俯瞰した場合、見上げた場合のイメージとしてCG再現図をご用意しました。

まず1点お伝えしますが、基本構想段階において当初想定していた建設位置が変更となりました。

(仮称)史跡センター整備基本構想(概要版)の3ページ下段、史跡センター全体の空間構成に記載のとおり、当初は曲輪217、218にかかる形で建設を予定しており、また「背後の山と調和を図った建物の仕上げとし、屋根と軒で曲輪の範囲を表現する。」「屋根勾配で曲輪面の勾配を表現し、屋根で範囲を表現できない箇所は石縁石等で範囲を表現する。」という構想がありましたが、実際に設計を進めていくにあたり、愛知県建築基準条例第8条に抵触する可能性があることが判明したため、建設位置の変更を行いました。この愛知県建築基準条例第8条とは通称をガケ条例と言い、特定の角度、高さのガケの付近には建設物を立てることが出来ないというものです。今回は建物の背後、北側のガケがその対象となると考えられたため、安全上の観点から建築予定位置を南側にずらし、同条例の対象範囲外に変更したものです。これに伴い、建物の一部で行う予定としていた曲輪の表現が出来なくなるため、植栽等を用いた他の方法に変更する予定です。

変更後の建設位置は曲輪218の範囲内に収めるような計画としています。

併せて、削平を受けていると考えられる旧小牧中学校の校舎跡地と掘削範囲を極力重複させ、かつ校舎の基礎底以下の掘削、杭の打ち込みは行わないようにすることで、遺構への影響が無いようにする予定です。また、これに伴い、建物自体の重量が軽くなるような素材選びも行っていく予定であります。

なお、旧小牧中学校建設跡地の詳細な位置については、資料4の薄い青色で塗られている箇所となりますので、そちらでご確認下さい。

次に外観パースについてのご説明です。

外観パースは資料4に有ります、建物を外側から見たイメージ図です。こちらをご覧いただくと、屋根が凸凹していることがお分かりいただけるかと思えます。地面側の最も低い位置が旧小牧中学校の基礎底のレベルと定まっているため、石垣模型を中心とした屋内の展示物に必要な天井高を確保しつつ、曲輪217の想定高から大きく逸脱しないようにするため、屋根に凹凸ができたものです。

また、屋根については、石垣をモチーフとして利用することで、目にした

方々へ史跡としてのイメージを伝えつつ、遺構を復元したなどの直接的な印象を避けるデザインとしています。

屋内のご説明を簡単にさせていただきます。資料4の平面図をご覧ください。

収蔵品展示室、企画展示、資料室については、先ほど展示のご説明に際してお話したとおり、フレキシブルな活用を見越した部屋となっています。基本的に間仕切りは固定壁ではなく、什器などの移動可能なものを想定しております。

常設展示については先ほど展示にてご説明させていただきましたので、詳細は省略させていただきます。

レクチャールームについては、ワークショップなどの団体活動時に利用する、収納人数80名ほどの部屋となります。

ワークショップに関しては、レクチャールーム南に位置する屋外スペースでの活動も想定しており、外と中のアクセスが容易になるよう、レクチャールーム付近に屋外で入り口を設けています。

交流サロンについては、ドリンク等を飲みながらの休憩も出来るスペースとして考えております。

立面図、断面図については室内構造、展示物等に必要なスペースが確保出来るよう設計を進めております。今後実施設計等が進む中で各所変更が発生するかと思いますので、詳細な説明については省略させていただきます。

俯瞰した場合、見上げた場合のCG図はイメージとなりますので、ご想像の参考としてご覧ください。

簡単ではありますが、建築基本設計の説明は以上です。

【池田会長】

ありがとうございました。事務局からの説明は終わりましたが、何か質問などありますか。

【速水委員】

交流サロンが休憩スペースになるんですか。

ショップとは言いませんが、飲み物が飲めるくらいの、来館者へのおもてなしという観点をどのように織り込むかについて、ぜひ考えていただきたいです。

去年の5月には商工会議所の都合で出席できなかったんですが、その前の年の策定会議で、ぜひ設計の際にはおもてなしが出来る飲食ブースをお願いしたいと言う要望を申し上げました。

当時、文化庁から出席された方も、その手の設備は外観を損なわなければ個人的には可能だと思うという発言をしていました。

ですから、せっかく遠くからいらっしゃった方のためにも、そういったスペースを織り込んで設計していただけるとありがたいです。

お聞きしたいのは、その後文化庁に折衝して、だめだと言う結論になったためにこの設計案になっているのか、あるいは何も話をせずにこの設計案になっているのか、そこが知りたいです。

今、小牧市として観光振興基本計画を作る段階に入っています。

その3つのキーワードの中に小牧山が取り上げられています。

本当に小牧市として、小牧山をどうPRしていくのか、訪れた人へのおもてなしをどうするのかということについて、きちんと考えていただきたい。

それがリピーターに繋がるのでは。

ただ単に箱物を作ったというだけではなくて、みんなに愛される成果になると良いなあという気持ちです。

【事務局（村田課長）】

文化庁との協議は速水委員のご指摘のように進めているところで、つい先日文化庁まで行ってきて話をしてまいりました。

担当からもお話しましたが、交流サロンがその部分にあたるのではないかと思います。

交流サロンについては、飲食ができるスペースとして検討をしております。

文化庁には、この4月以降、数回訪問させていただいていますし、その都度、どこまでいい、どこまでだめだという話を踏まえた中で進めている次第です。

【池田会長】

今後何回も聞かれると思いますが、範囲としてはどこまでが良いのか。飲食の飲ですから、自動販売機程度ですか。

【速水委員】

それでも結構です。

何もないというのは問題かと思えます。

歴史館の横には自動販売機がありますが、本当に来た人のことを思って考えて欲しいという気持ちです。

【池田会長】

交流サロンには椅子やテーブルは設置されますか。

椅子やテーブルは用意されていて、かつ史跡外まで走らなくてもここで手に入る飲み物があれば良いということですか。

【速水委員】

はい。

【事務局（村田課長）】

池田会長にお話いただいたとおりの内容で考えています。

自動販売機も置くことが出来るような形で進められるように協議を進めていきたいと考えています。

【松永委員】

個人的な感覚ですが、ちょっと狭いような気がします。

【澤木委員】

先ほども出ました観光振興基本計画は3月末頃には策定されますが、交流人口の拡大を目指すという意味から、観光振興基本計画の中でも、小牧山は本当に大きな位置づけになります。

（仮称）史跡センターも活用策の1つとして入っていますので、おもてなしという観点から、ぜひ小牧のお土産を置いていただけるようなスペースも少しあると良いかなと思いますので、ご一考いただければと思います。

【事務局（村田課長）】

土産物については、今後の検討とさせていただいており、今も検討を進めています。この内容については、ぜひ愛知県の意見も伺えればと思います。

【松本助言者】

おもてなしという内容についてですが、原則として文化庁の補助をいただく史跡でありますし、史跡内の建物ということもありまして、敷地面積の上限が決まっているものとなります。

また、1番には史跡のためになるものを基本として建てられているべきものですので、交流サロンのようなスペースが大きくなった場合どうなのかと問われれば、補助対象とは言えなくなってしまいますので、あまり大きなものは無理と考えておいたほうがよいかと思います。

ただ、こういったスペースをどのように使えるかは、今後の協議次第かと思えます。

おもてなしという意味ですと、外のオープンスペースに、何か常時置いておける訳ではないですが、例えばイベントの日を決めて一日で撤去できるもの、遺構に影響を与えない範囲で、例えばキッチンカーなどを持ってきて、イベントの日だけ出展するということについては、史跡関係なくやっても良い、市の許可でも可能だと聞いていますので、そういった形で人が集まる事が出来た

らなあと思います。

【池田会長】

屋台カーなんかは東京博物館に出ます。土日なんかは庭に必ず来ていて、ホットドッグなど、色々なものを売っています。

以前小牧山にも建物を建てたいと仰った時、建物を建ててしまうと後はもうどうにもならなくなってしまうので、できたら屋台カーみたいな形で春のイベントなどで出店してもらえる、駐車場のようの中にそのスペースがあったらいいかな、と。

建物を建ててしまうのとは違って、採算が合わないだともない。

熱海なんかのホテルなどにガーデンがありますが、そこにキッチンカーが来てアイスクリームを売るだとかしていて、最近は建物は建てていないですね。

だから私は、ここに飲み物の椅子さえあればいいと思います。

買ってきてそこに座って食べても構わないという許可されただけであれば、外で売るとするのが良いかと。

小学生、中学生は自分たちで持ってきますので、その場合は絶対いらないと思いますし、土日の外からの方や、観光バスで中国の方が来るようなタイミングは予め分かっていると思うので、観光協会とタイアップされたらいいかなと思っていました。

外にもちゃんと電気などは用意していただけるんですね。

雪などが降ったり台風が来たりすれば、皆さんいらっしやらないと思いますし。

【澤木委員】

トイレがレクチャールームの横になりますが、外からの利用者はレクチャールームの入り口を通して使えるのだらうと思いますが、仮に有料展示となった場合、展示スペース側の扉が閉まっていると展示を見に来た方がトイレを使えなくなるんじゃないかと。その辺りはどうなのでしょう。

【事務局（村田課長）】

基本的に営業時間内については、展示室側とレクチャールーム側の間の扉は開いており、レクチャールーム脇のホールを経由することでトイレに行くことができます。

小中学生の団体受け入れ時やワークショップなどで、レクチャールームと屋外とを行き来するようなケースなど、今後運用面で検討する必要があるかもしれませんが、レクチャールームを使わないのであれば、レクチャールーム南に

ある屋内外の出入り口は閉鎖されています。

あくまで事務室東の扉を入れていただいて、トイレだけ行きたいのであれば、右の通路から向かっていただくという形をイメージしています。

【澤木委員】

有料でなく、展示スペースに誰でも入れるということであればそれで良いと思いますが、有料であれば、トイレ利用者が事務室東の扉から入ってということとは出来ないですね。

【事務局（小野）】

仮に有料の取り扱いになった場合ですが、有料のエリアの境を「シアターとホールの間」と「常設展示の出口と通路の間」として閉塞し、有料ゾーンとしたいと考えています。

事務室東の扉からトイレまでの経路に関しては常時開放の空間となる予定です。

平面図上で言えば、ピンク色の空間を有料ゾーンとするイメージです。

【池田会長】

まだ基本計画なので、これから図面上の変更が発生することもあるかと思いますが、女子トイレが3ブース、男子トイレには個室は無しですか。

【事務局（小野）】

男子トイレの個室は2ブースとなっています。

【池田会長】

分かりました。

基本的に女子トイレの個室数が足りないと思いますので、もう少し検討してください。観光バスで大勢の人が訪れた場合に、この数では間に合わないと思います。小学生の見学などで「トイレに行ってください」となった場合、女の子は中々帰ってこないです。要するに個室の数が足りないののでずっと待っていると時間がかかってしょうがないんです。

【舟橋】

2つ教えてください。

1つ目です。屋根を見ると石垣のようになっていますが、太陽光発電は使わないということで良いですか。

2つ目です。レクチャールームを見ると、東側は倉庫となっています。南側はパースを見る限りでは壁になっていて窓が無いように思いますが、窓は作らないイメージでしょうか。

(仮称) 史跡センター整備基本構想(概要版) の4ページ下段、史跡センター全体空間構成には、東側に「景色を見せる」とありますので、せつかくですからレクチャールームと倉庫の位置関係を見直して、レクチャールームから景色が見られるようにしたほうが良いのでは無いでしょうか。

【事務局（浅野係長）】

レクチャールームでは、小中学生の方がいらっしゃった場合など、始めに映像を見せて解説をするという想定をしています。その際に、音が漏れる、外からの音や光が入るなどの状況が考えられますので、今のところ、レクチャールームには窓の設置を考えておりません。

また、お話にあった「景色を見せる」という点については、通路南面がガラス張りになっており、ベンチに座って外を見ていただくということで構想の内容を再現する予定ですので、ご理解いただければと思います。

【速水委員】

小牧山は日本最古の石垣があるということで、地域資産、地域資源だと考えられると思いますが、これを将来的にどのように活用するおつもりですか。

遠くから見た時に石垣が見えるのか見えないのか、将来に亘って諦めた方が良いのか。日本最古の石垣が見えるという希望を持てるのかもてないのか。そのあたりはどうなんでしょうか。

【事務局（村田課長）】

山頂部分の本物の石垣のことでしょうか。

【速水委員】

そうです。

【事務局（村田課長）】

山頂部分については、地面の下がどのような状態になっているのかなど、発掘調査を第8次まで進めているところです。

この発掘調査は主郭地区、山頂付近の部分をもどのように整備できるかという意味を込めて発掘を行っています。

歴史的事実がどうであったかを知りたくて行っている発掘ではなくて、将来的にどのように整備していくかを重要視して発掘を進めているというのが第1点です。

その発掘が進んだ段階でどのように整備をするか考えていく訳ですが、基本的には現在も露出している石垣が見えることは確実だと思います。

土の中に埋められている部分については、当然文化庁との協議を進めながら

どのように活用し、見せていくのかを検討していく予定です。

(仮称) 史跡センターを造る意味の1つでもあります。下の部分でプロジェクトマッピングや3D映像を使って、本来ない部分まで表現しながら石垣のスケール感を出していくことになる反面、山頂部分については、姫路城や名古屋城にあるような本来無かった石垣をくみ上げることは考えていません。

ただし、本物の石垣を見ていただきたいというイメージはしています。

【池田会長】

他に無いようですので、以上で質疑を終わります。

事務局は本日の意見を取りまとめ、新しい形へ修正していただくようお願いします。

他にありますか。

(特になし)

それでは特に無いようですので、5 議題(2) (仮称) 史跡センター建築基本設計についてを終わります。

6 その他

【池田会長】

続きまして、会議の次第により、6 その他について、事務局から何かありますか。

【事務局(浅野係長)】

まず1点目ですが、先ほど議題(1)の中で池田会長より名称について小牧山を付けるのかというお話がありましたが、文化庁より、正式名称には史跡名称を必ず含むようにという指示が有りました。それが小牧山ガイダンスセンターなのか、小牧山史跡センターなのかは分かりませんが、小牧山という名称は必ず付きます。

また、それ以外に愛称なども考えられますので、それは別途公募を考えております。来年早々にでも正式名称を定め、その後愛称を募集という流れで進めたいと考えています。

次にですが、本日色々なご意見をいただきましたので、ご意見を集約し、修正をさせていただきます。完成の折には、委員の皆様方にお配りしていきたいと考えておりますので、またよろしく願いいたします。

【池田会長】

委員の皆さんから、何か報告・連絡などはありますか。

(特になし)

無いようですね。本日の議題の審議はすべて終了しました。進行を事務局へお返しします。

【事務局（村田課長）】

池田会長、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の議事日程は、全て終了いたしました。

慎重な審議をいただきましてありがとうございました。

これをもちまして、第17回 史跡小牧山整備計画策定会議を閉会いたします。